



平成22年11月1日発行

第20号

ながわまち 議会だより

発行 長野県小県郡長和町議会
編集 議会だより編集委員会



青木村・長和町議会議員研修会

両町村の議会議員の共通する問題の認識と解決の為に、青木村・長和町議会議員研修会が10月19日（火）に国保依田窪病院で開催されました。

両町村の議会議員21名が参加した研修会では、依田窪病院の現況について、三澤病院長の説明があり、「長野県の地域医療再生計画及び医師確保対策について」と題して、長野県健康福祉部医療推進課の井上課長補佐、竹内係長の講演が行われました。

第20号の内容

9月定例会

町長提案理由	P 2
議案審議結果	P 3
平成21年度一般会計・特別会計決算認定	P 5
一般質問	P 11
皆さんへのメッセージ	P 20

平成22年9月定例会開催される

長和町議会9月定例会が9月3日（金）から24日（金）までの22日間の会期で開かれ、平成21年度決算認定、条例案、補正予算案などについて審議が行われました。

町長提案理由の説明



審議に先立ちまして、基本的な課題並びに当面する問題、そして、課題に対する進捗状況等について、簡単に項目を上げて、説明します。

一つには、和田簡易水道の統合についてですが、長年の懸案事項であった本事業も今のところ、計画どおり順調に進んでいます。本年は、10工区に分け、総額2億8千万円ほどの事業執行をしています。4年後には完成し使用開始の予定となっています。施設の完成後は、公営企業法適用の上水道事業に移行させ、事業の独立採算経営を推進していくことと考えています。

二つには、公共施設の耐震化、改築工事についてですが、計画通りに進んでおり、本年は、企業センター、入大門センター、寺上公民館の3力所の耐震化工事を実施中です。今後、計画的に取組んでゆきたいと考えています。

三つには、過疎計画についてです。町民の要望、意見等集約した中で今回の

提案です。採決を頂き、事業の推進を図って参りたいと考えています。

四つには、依田窪病院についてですが、研修医制度による医師不足ですが、内科・外科医の不足による休診は県内に留まらず全国的な状況です。へきち医療を考える時に、経営効率を中心に考えてもらっては困ると言っているが、今後とも機会を捉え、県当局並びに関係各位にへきち医療の充実に力を注ぐよう要望するつもりです。

五つには、人口対策についてです。

長和町の将来の明暗を分けると言っても過言でない人口減少問題です。合併して5年を迎えようとしています。各年、平均して、年間百人余りの人口が減少しています。何とかしてこの人口減少に歯止めを掛けるためにあらゆる手段を講じ、対策を取ってゆきたいと思っておりますのでご協力をお願いいたします。

若者等定住マンションの建設につきましては、平成

22年度で12戸の建設を始めとして、年次計画をたて、100戸前後のマンションを建設していくことと考えています。その入居者に対するケアというものをしっかりと確立をさせてゆこうと考えています。例えば入居される方に対して、仕事がない方については就職先等仕事の斡旋をするとか、農業をしたい方については農地を紹介するとか、ケアをしつかりやってゆきたいと考えています。

六つには、雇用・生活支援については、未だ先の見えない雇用情勢に対し、国県の補助金を活用しての雇用拡大を更に推進させてゆきたいと考えています。

また、生活支援については、高校通学費の補助、新築住宅助成金、そして、商業の活性化のために地域いきいき券補助等を実施してゆきます。

また、高齢化の進行に伴って高齢者、独居老人等が増加し、交通弱者が急増している中で、地元のお店、生活センターの廃業、近隣のスーパーの撤退等によって、日常生活用品の確保が困難な状況になっているこ

とに鑑み、交通弱者対策を色々な方向から考え、生活支援を充実させてゆこうと考えています。

七つには、生活環境についてですが、さしせまった課題として捉えています。生ゴミ処理問題ですが、長門牧場との連携を強化させながら、資源循環型で生ゴミ処理堆肥化を促進してゆこうと考えています。

八つには、農業については、農業の衰退、農業人口の高齢化、後継者不足等々が大きな課題となつていますが、農地保有の合理化事業の推進を図り、そして、農地の斡旋補助制度の創設をし、又、集落営農組織や担い手の育成を図り、必要な支援策を実施してゆこうと考えています。

私は町民皆さんの負託に応えるために、町民目線に立つた行政を推進してゆきますので、議員皆様にもご理解とご協力をお願いするものであります。

（町長提案理由説明より抜粋）

9月定例会で審議された議案などの審議結果

報告案（15件）

- ・ 例月出納検査結果報告
- ・ 議員派遣結果報告
- ・ 株式会社長門牧場第5期決算について
- ・ 株式会社長門牧場第6期事業計画について
- ・ 平成21年度長和町学校教育振興基金の運用報告について
- ・ 平成21年度長和町交通安全対策基金の運用報告について
- ・ 平成21年度長和町共済等推進基金の運用報告について
- ・ 平成21年度長和町地域福祉基金の運用報告について
- ・ 平成21年度長和町奨学基金の運用報告について
- ・ 平成21年度長和町土地開発基金の運用報告について
- ・ 平成21年度長和町福祉医療費資金貸付基金の運用報告について
- ・ 平成21年度長和町国民健康保険高額医療費資金貸付基金の運用報告について
- ・ 平成21年度長和町長門牧場振興基金の運用報告について
- ・ 平成21年度健全化判断比率について
- ・ 平成21年度資金不足比率について

決算認定案（12件）

- | | |
|---------------------------------------|---------|
| ・ 平成21年度長和町一般会計決算の認定について | 全員賛成・認定 |
| ・ 平成21年度長和町国民健康保険特別会計（事業勘定）決算の認定について | 全員賛成・認定 |
| ・ 平成21年度長和町老人保健特別会計決算の認定について | 全員賛成・認定 |
| ・ 平成21年度長和町後期高齢者医療特別会計決算の認定について | 全員賛成・認定 |
| ・ 平成21年度長和町同和地区住宅新築資金等貸付特別会計決算の認定について | 全員賛成・認定 |
| ・ 平成21年度長和町水道特別会計決算の認定について | 全員賛成・認定 |
| ・ 平成21年度長和町特定環境保全公共下水道事業特別会計決算の認定について | 全員賛成・認定 |
| ・ 平成21年度長和町簡易排水施設特別会計決算の認定について | 全員賛成・認定 |
| ・ 平成21年度長和町観光施設事業特別会計決算の認定について | 全員賛成・認定 |
| ・ 平成21年度長和町国民健康保険歯科診療所事業特別会計決算の認定について | 全員賛成・認定 |
| ・ 平成21年度長和町介護保険特別会計決算の認定について | 全員賛成・認定 |
| ・ 平成21年度長和町和田財産区特別会計決算の認定について | 全員賛成・認定 |

条例案（6件）

- | | |
|--|-----------|
| ・ 長和町長和の里歴史館設置条例の制定について | 全員賛成・原案可決 |
| ・ 長和町消防団員等公務災害補償条例の一部を改正する条例の制定について | 全員賛成・原案可決 |
| ・ 長和町自然環境保全条例の一部を改正する条例の制定について | 全員賛成・原案可決 |
| ・ 長和町営ブランシュたかやまスキー場条例の一部を改正する条例の制定について | 全員賛成・原案可決 |

前ページより続き、審議結果です。

- ・長和町営エコバレー駐車場条例の一部を改正する条例の制定について 全員賛成・原案可決
- ・長和町姫木コミュニティセンター設置条例の制定について 全員賛成・原案可決

補正予算案（11件）

- ・平成22年度長和町一般会計補正予算（第3号）について 全員賛成・原案可決
- ・平成22年度長和町国民健康保険特別会計（事業勘定）補正予算（第1号）について 全員賛成・原案可決
- ・平成22年度長和町老人保健特別会計補正予算（第1号）について 全員賛成・原案可決
- ・平成22年度長和町後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）について 全員賛成・原案可決
- ・平成22年度長和町介護保険特別会計補正予算（第1号）について 全員賛成・原案可決
- ・平成22年度長和町同和地区住宅新築資金等貸付特別会計補正予算（第1号）について 全員賛成・原案可決
- ・平成22年度長和町水道特別会計補正予算（第1号）について 全員賛成・原案可決
- ・平成22年度長和町特定環境保全公共下水道事業特別会計補正予算（第1号）について 全員賛成・原案可決
- ・平成22年度長和町簡易排水施設特別会計補正予算（第1号）について 全員賛成・原案可決
- ・平成22年度長和町観光施設事業特別会計補正予算（第1号）について 全員賛成・原案可決
- ・平成22年度長和町和田財産区特別会計補正予算（第1号）について 全員賛成・原案可決

その他（1件）

- ・長和町過疎地域自立促進計画について 賛成多数・原案可決

規約案（1件）

- ・長野県地方税滞納整理機構規約案について 賛成多数・原案可決

人事案（1件）

- ・人権擁護委員の推薦（大門 川合かほるさん）につき意見を求めることについて 全員賛成・同意

陳情（1件）

- ・安心・安全な国民生活実現のため、国土交通省の地方出先機関の存続を求める陳情書について 賛成多数・採択

意見書案（1件）

- ・安心・安全な国民生活実現のため、国土交通省の地方出先機関の存続を求める意見書について 賛成多数・原案可決

平成21年度長和町一般会計・特別会計決算認定

平成21年度一般会計及び特別会計決算の認定について審議され、一般会計決算及び特別会計決算について全会計とも全員賛成で認定されました。

各会計別の決算額については下表のとおりです。

会 計 名	歳入決算額(円)	歳出決算額(円)	差引残額(円)
一 般 会 計	59億5967万8288円	57億6566万486円	1億9401万7802円
国民健康保険特別会計	7億8033万263円	7億5396万4254円	2636万6009円
老人保健特別会計	994万4040円	987万1061円	7万2979円
後期高齢者医療特別会計	6588万5508円	6479万3140円	109万2368円
同和地区住宅新築資金等貸付特別会計	534万4366円	375万8892円	158万5474円
水道特別会計	1億9456万4365円	1億7636万5617円	1819万8748円
特定環境保全公共下水道事業特別会計	5億9733万1111円	5億5727万2575円	4005万8536円
簡易排水施設特別会計	1199万172円	1055万7423円	143万2749円
観光施設事業特別会計	1億2390万9950円	1億1155万7793円	1235万2157円
国民健康保険歯科診療所事業特別会計	3342万9077円	3342万9077円	0円
介護保険特別会計	8億8694万6277円	8億5341万802円	3353万5475円
和田財産区特別会計	313万7863円	168万477円	145万7386円
特別会計 合計	27億1281万2992円	25億7666万1111円	1億3615万1881円
総 計	86億7249万1280円	83億4232万1597円	3億3016万9683円

平成21年度一般会計決算認定に対する討論

平成21年度長和町一般会計決算認定について、9月24日(金)に常任委員会の委員長報告が行われ、委員長報告に対する質疑の後行われた討論では、1人の議員が賛成の立場で討論を行いました。



議員 本予算の執行にあたっては、不景気と雇用の悪化にどう対応してきたかにあります。国の追加経済対策、「地域活性化・経済危機対策臨時交付金事業」、「地域活性化・きめ細やかな臨時交付金事業」、「緊急就労支援事業」、「緊急雇用安定対策補助事業」を受けて、町独自の支援も行い、「相談窓口」の設置をはじめ、企業へ制度資金への利子補給、失業者の就労援助、町内商店の消費拡大に取り組んできたことを、評価したいと思います。

次に、高校卒業までの医療費の無料化は、全国に誇れるもので、子どもを持つ家庭への大きな援助となり、福祉医療費の拡充が行われたことも評価したいと思います。

普通建設事業では、国の交付金事業によるものではありませんが、町営住宅の建設、長門小学校の改修工事、和田中学校の耐震化工事、農道舗装など少子化対策、安心な学校生活、農作業への支援などが大きく進みました。

獣害対策のための柵設置事業については、柵設置地域での獣害被害を少なくしたことも評価したいと思います。

次に、問題と思われることについて、第一に、プレミアム商品券の発行について、売り上げが減少している町内の商店の支援と町民の生活支援として、3回発行されました。第一回の発行は、この趣旨に沿うものとして評価できますが、特に第二回の限度額を増やしての発行は、発行前の討論でもふれたように町民のなかに不公平を生じるので、もっと町民の意見を聞くなどあわてて発行をしなくても良いとしてきましたが、混乱を招いてしまいました。この教訓をしっかり学んでほしいと思います。

第二に、青原・長久保間の道路改修工事について、2メートルの歩道の新設は「過大投資」であると反対をしてみました。今後の工事のためにも町民の意見を汲み取って欲しいと思います。

第三は、同和行政について、団体補助金など、今日まで指摘してきた事項を検討することを求めます。

最後に、今の経済状況は、町長が繰り返し述べているように、雇用や生活が改善の兆しが見えてきていません。基金の取り崩しも行い、臨時職員の採用や商工業者の支援など、町民の暮らしを真剣に受け止めて、応援することを肝に銘じて進めていただきたいことを求めて、賛成の討論とします。

平成21年度決算審査報告について

平成21年度決算認定にあたり、平成21年度一般会計及び特別会計の決算について、監査委員による決算審査が行われ、平成22年8月26日に（木）に平成21年度決算審査報告書が羽田町長に提出されました。

22長監 第11号
平成22年8月26日

長 和 町 長 羽田健一郎 様

長和町議会議長 小川 純夫 様

長和町監査委員 名 倉 俊 城

長和町監査委員 柳 澤 貞 司

平成21年度事業決算審査報告書

平成22年	6月25日	収納状況審査
	7月13日	事業現場審査
	7月27日	一般会計（総務経済常任委員会所管一部）
	7月28日	一般会計（総務経済常任委員会所管一部）
		水道特別会計
		特定環境保全公共下水道特別会計
		簡易排水施設特別会計
		観光施設事業特別会計
		和田財産区特別会計
		土地開発公社
	7月30日	一般会計（社会文教常任委員会所管一部）
		国民健康保険特別会計（事業勘定）
		老人保健特別会計
		国民健康保険歯科診療所事業特別会計
		介護保険特別会計
		後期高齢者医療特別会計
	8月 3日	一般会計（社会文教常任委員会所管一部）
		同和地区住宅新築資金等貸付特別会計
	8月 4日	大門財産区
		長久保財産区
		古町財産区
		現場及び書類審査講評

以上について、歳入歳出決算書、事項別明細書、実質収支に関する調書及び証書類を審査した結果、経理は収支ともおおむね適正であるものと認める。

以上



栗原 暁史
社会文教常任委員長

社会文教常任委員会

委員長 / 栗原 暁史
副委員長 / 長井 武雄
委員 / 田村 孝浩
古川 直孝
原田 恵召
小川 純夫



常任委員会審査報告

総務経済常任委員会・社会文教常任委員会が9月13日（月）、14日（火）に行われました。各常任委員会では、一般・特別会計決算認定及び条例などに関する議案について審議が行われました。

平成21年度一般会計
決算の認定について

町民福祉課

問 65歳未満の死亡が

10人で全体の10・4%
を占めている。増えて
いるのか。将来的に65
歳未満の死亡が増えて
いく可能性はあるか。

答 65歳未満の死亡は

多い。今後も増えてい
く可能性がある。原因
はガンが半分で、人間
ドックの未受診者も見
受けられる。受診を推
進してゆきたい。

問 今年度のインフル

エンザ対応はどうか。

答 予防接種は新型と

季節性の混合ワクチン
となり、親の負担も軽
減される。今年度は1
才から中学3年生は自

己負担1000円でワ
クチン接種ができるよ
う事業を進めてゆきた
い。

問 小児初期救急セン

ターは、どこにあるの
か。負担金は、どこに
支出しているのか。セ
ンターへの問い合わせ
はどうするのか。

答 長野病院に併設さ

れていて、夜8時から
11時まで、保護者に電
話をしていただき、受
診している。負担金は
上田市に支払ってい
る。平成20年度は長和
町では29名が受診し
た。

問 依田窪病院に電話

が来た場合には、小児

初期救急センターを紹
介してもらえるのか。

答 病院では問い合わせ

せがあれば、連絡先を
教えている。健康づく
り係では、小児初期救
急センターが出来た事
を、小さな子どもをも
っているお宅にチラシ
を配布してお知らせし
ている。

問 合併前の和町村と

中部電力の契約関係な
どは現在も継続されて
いるのか。契約関係に
ついて確認をお願いし
たい。

答 中部電力との契約

については合併後も継
続されている。契約関
係の詳細については確
認していない。

各自治会・区におけ

る契約内容は町では把
握が難しいが、中電へ
の確認を行う。

問 町が実施していく

生ごみ処理施設は、ど
うなっていくのか。

答 生ごみの堆肥化に

ついては、町民福祉課
の所管であり検討委員
会をお願いし、研究し
ていく。遅れており申
し訳ない。施設予定地

の長門牧場等とも連絡
をとりながら実施して
いく。

問 児童虐待の窓口に

ついて、健康づくり係
とも密接な連携は取れ
ているか。

答 それぞれの分野毎

に虐待問題に対する協
議会を設置している。
委員は共通の者に委任
しており、事実上一つの
協議会として対応し
ている。福祉係は主に
DVや障害者に関係す
るが、他部署とも連携
を図っている。緊急性
が高い場合には、緊急
ケース会議を開催する
等の対応を取ってい
る。

問 配食サービスのお

弁当の価格と、利用者
の推移は。配食サービ
スの提供方法の変更
は、どのようになって
いるか。

答 ご飯とおかずで45

0円、おかずのみで4
00円。
利用者の推移は、平

成18年度17509食
平成19年度21057
食、平成20年度237
97食、平成21年度1
8054食。提供方法
は、上田市が、旧市町
村ごとにやり方が違
い、統一をはかつてい
るところだ。福祉会も、
上田市の状況により検
討していく。

教育委員会
問 歴史館の現状につ
いて。

答 今年3月に改修工
事が完了した。5月か
ら町内各所の保存資料
の搬入、整理に着手し
た。梅雨時期に地下部
分が高湿度となり、結
露が発生したため、そ
の対策と対応に追われ
たが、レンタルの除湿
機を使用することで、
状況の改善を図った。
9月に入り、館内の
状況も安定してきたの
で、資料の搬入を再開
し、予定している全体
の約7割、2万点ほど

の資料の搬入が完了し
ている。
この後、原始・古代
ロマン体験館や黒耀石
石器資料館の埋蔵文化
財関係の資料を搬入す
る予定。この秋には、
展示室も整備し、公開
したい。

問 広域保育委託料の
内容について。
また、近くの町外保
育園に広域入所してい
る児童に対しては町内
の保育園への入園につ
いて相談したか。

答 立科町、上田市、
佐久市の保育園へ通っ
ている児童に係る委託
料である。近くの保育
園に広域入所している
児童の保護者には、町
内の保育園への入所の
相談はしたが、勤務の
関係で止むを得なかつ
た。

問 長和町周辺の市町
長和町国民健康保険
特別会計(事業勘定)
決算の認定について

村国保税はいくらか。
答 21年度の一世帯当
たりの保険税に関して
は、

上田市115881円
(保険税の高い方から
14位)
東御市103144円
(35位)
立科町92848円
(51位)
下諏訪町97981円
(43位)
青木村111614円
(21位)
長和町73900円(65
位)。
一人当たりの保険料に
関しては、
上田市65464円
(13位)
東御市56767円
(35位)
立科町48723円
(53位)
下諏訪町57028円
(34位)
青木村63382円
(17位)
長和町39517円
(68位)。

平成21年度長和町同
和地区住宅新築資金
等貸付特別会計決算
について
問 滞納金回収はど
うするのか。
答 支部の協力を得な
がら取り組んでいる。

平成21年度長和町介
護保険特別会計決算
の認定について
問 滞納整理を行な
っているか。
答 個別に訪問したり、
電話での催促、応じて
もらえる方は時効期間
を延長させることがで
きる分納誓約書をもら
ったりしている。

問 不納欠損した保険
料未納分については支
払うことができなくな
るといふことか。
答 不納欠損をした保
険料については、その
未納期間に応じて保険
給付費が7割に引き下
げられる、高額介護サ
ービス費が支給されな

い等のペナルティが課
せられる。
長和町長和の里歴史
館設置条例の制定に
ついて
問 歴史館への資料の
移設で、空いた施設の
後利用は。
答 長門小学校の倉庫
のほか、老人福祉セン
ター2階の長門町誌の
編纂室や、旧JA長久
保の地下などで空ス
ペースができた。もとも
と、多くの施設から、
倉庫等を使いたいの
で、資料を運び出すよ
う依頼されていた。そ
れぞれで使っていく。



歴史館に保存される明治時代の消防ポンプ



滝沢 勇夫
総務経済常任委員長

総務経済常任委員会

委員長 / 滝沢 勇夫
副委員長 / 竹内 英和
委員 / 宮下 翼
河野 啓治
柳澤 貞司
伊藤 博一



平成21年度一般会計
決算の認定について

総務課

問 地方税滞納整理機構が組織されるが、これにより滞納整理は進むか。

答 大口の回収困難案件、滞納額1件100万円以上をお願いする。その他の案件は、今までどおり、役場で徴収事務を行う。

問 定額給付金について、町の経済や滞納の改善等変化はあったのか。

答 幅広く活用され、効果はあった。

問 巡回バス1便あたりの利用者数ほどの位か。また、利用状況で前年に比べ利用者が減少しているのに、利用料収入が増えている理由は。

答 通学バスは別として、1便6名である。また、高齢者と障害者の利用が減少している

が、一般の利用者が増加したからである。

問 投票立会人を公募してはどうか。また、期日前投票も浸透してきたので投票時間短縮の考えはあるか。

答 今後、選挙管理委員会の議題として検討する。

企画財政課

問 町民手づくり事業について、同じような団体、個人から毎年申請が出ているが。

答 同じ方については3回までとしている。映画祭など毎年ありそのような事業については、別の事業として今後考えてゆきたい。

問 国の各種交付金事業により建設事業費が増加しているが、ソフト面にも使っているのか。また交付金により賄われた建設事業の財源をソフト面にまわした事業はあるか。

答 ソフト事業ではプレミアム商品券に使っ

ている。また建設事業については基本的に新規事業なのでソフト面に回した財源はない。

問 町営マンションについて入居の募集はいつか。

答 モデルルームは1月頃先行して見せる予定でいる。募集は2月頃を予定している。

建設水道課

問 電源立地地域対策交付金の用途の範囲について。

答 特に指定はなく、職員の給料などにも使用できる。4月に計画し事前に協議し申請を提出すれば良く、町内なら問題ない。

問 除雪機械の賃借料が当初から比べると増加している理由は。

答 天候の関係で当初では把握できない。そのため決算額は昨年度の除雪の出動の成果となっており、昨年度は雪が多かったため増額となった。

産業振興課

問 食の安全・安心、地産地消対策事業の内容について。

答 国の交付金を財源に地場産のもち米を活用するため、申し餅の成形機と角切カッターへの助成183万4千円と、地元産工ノキの推進による食の安全・安心を推進するため、

J A工ノキ部会が導入した高圧洗浄機への助成93万1千円です。

問 東京農業大学との今後の展開について。

答 文科省の大学教育推進プログラムの補助期間が平成22年度末に終了となるため、これまでも頻繁には来町出来ないが、今後も出来る限り継続して教育実習地域として来町する意向をもって町としても都市学生との交流等の名目をもって経費的なバックアップを図る意向である。

問 奨励品について、現在47品目が、認定して終わりではなくランク付けをするなどして町内外に広めなければならぬが、今後どのように取り組んでゆくのか。

答 ランク付けや特産品という扱いも含め、奨励品の住み分けは検討しなければいけないものと捉えている。21年度も認定品はない状況であるが、今後、そのことも含めて奨励品審査委員会で制度の検証を行うなど協議して方向を決定してゆきたい。

問 ダツタンそば加工施設についてどのようなものを作り運営していくのか、今後の方向性はどうか。

答 信濃霧山ダツタンそば生産者組合の指定管理となっているので生産者組合の運営方針によるものと理解しているが、意見交換をし

ながら進めてゆきたい。まず、加工施設でダツタンそばの付加価値をつけるために加工品を食べていただくなど、ダツタンそば自体を有名にすることが目標である。身体に良いという特性を活かした製品作り、また遊休廃農地の利用を目指している。

問 松くい虫の対策事業について、伐採場所はどこか。町内では今後の被害をどのように予測しているか。被害木の処理について。

答 松くい虫の実施箇所は、町内全域で行なっているが、立岩地区での実施が多い。標高が高くなると、松くい虫の被害が少なくなるが、大和橋付近でも被害が確認されている。今後は標高800m付近でも、松くい虫の発生が予想される。被害木を切り倒し、ビニールで包み、薬品処理を

行なう。処理の単価は、長野県の単価があり、1立方メートルあたり23900円で処理している。

問 平成21年度長和町水道特別会計決算の認定について

答 配水施設の箇所は和地区の工事後も変わらないか。また、管の修理後も配水池の修繕の必要があると思われるが。

問 認可変更の費用が高額であるが。

答 和地区の簡易水道を統合するために必要な手続きであり、多項目の資料作成が伴ったため、専門業者に委託しなければ困難であったため。

平成21年度長和町特定環境保全公共下水道事業特別会計決算の認定について

問 鷹山処理場の汚泥について長門処理場へ輸送して脱水ケーキにするということだが、鷹山処理場でできないのか。また長門処理場へ輸送する汚泥量について。

答 脱水ケーキにするための「脱水機」は高額になることから、鷹山処理量程度で一基設置するのは非効率であり、さらに特定環境下水道で発生する汚泥は、産業廃棄物となり、民間産廃業者に汚泥のまま輸送と処分を委託するよりは、長門処理場で一括脱水する方が最も低コストとなる。

問 平成21年度長和町観光施設事業特別会計決算の認定について

答 老朽化してリフォームができない空き建

物等の対応について。この場合は滞納している人が多いのではないかと。

答 お客様の建物であるので、更新の場合等に老朽化している建物については新築するなり取壊す等、解約時には更地にして戻して返却してもらっている。



建設中の町営マンション



一般質問

8人の議員が町政を問う

9月7日（火）に一般質問が行われ、8人の議員が質問を行いました。

質問事項は下の表のとおりですが、ここでは、その一部をお知らせします。

発言順	氏名	質問項目
1	竹内 英和	(1) 長和町における危険箇所の豪雨災害対策について (2) 新しい農業後継者育成施策について
2	古川 直孝	(1) マルチメディアデージー教科書の普及促進について (2) 長久保児童館及び児童クラブについて (3) 町民の生命と健康を守るための対策について
3	伊藤 博一	(1) 地方行政自治体としての新庁舎建設について (2) ケアハウス施設の設置に向けて
4	河野 啓治	(1) 獣害対策について (2) 子育て支援策のさらなる充実について
5	栗原 暁史	(1) 国民健康保険行政について
6	田村 孝浩	(1) デイサービスの施設運営について (2) 長門牧場への最短道路について
7	原田 恵召	(1) 過疎対策事業債について (2) 空き家バンクの創設について (3) 資源循環型施設並びに生ゴミの堆肥化について (4) 大門基幹集落センターの建て替えについて
8	宮下 翼	(1) 分水嶺トレイル事業の進捗状況と今後の課題について (2) 高齢者の所在確認、見守り等について



竹内英和 議員

問 町には危険渓流や急傾斜地も沢山あり、18年の豪雨災害が発生した箇所を教訓として、類似の危険箇所をどう把握し対策しているか。

答 羽田町長

洪水ハザードマップを作成し町内における土石流危険区域、急傾斜の危険箇所、地すべり危険箇所を図上に明記し、危険箇所の把握をしている。また、このマップには洪水等被災しないための日頃の心構えや、緊急時の連絡先、けがの応急手当の方法等も記載されており、町内各戸へ配布し、洪水等被災しないための啓発も行っている。

予防対策の取り組みは、地区の見回りを実施し、危険箇所の把握等を

行い、危険性が高く、緊急性のある箇所から改良工事を実施している。

問 長久保地区の治水対策の取り組みについて。

答 建設水道課長

最近の豪雨災害の状況を見ると、短時間での大量の降雨により小河川の氾濫による住宅被害、土砂崩落による災害等が多く発生していることから、治山や治水、小河川に目を向けていくことが非常に重要なことと考え、町における水系調査を実施し、町内の沢筋からの小河川の状況等について把握をし、今後の河川流域計画の基本資料として活用したい。

問 農業現場の現状認識と施策について、過疎化、高齢化が進み、あと数年もすれば農業の現場は相当厳しい状況になると思うがどう認識されているか。

答 羽田町長

現在の農業経営は、国、県でも危機的状況であり農業従事者の減少、後継者不足、生産物の価格低迷、さらには鳥獣害被害と農業生産意欲に陰りを落していると思っている。

当町においても、そのままそれが当てはまる状況であり、遊休荒廃地の拡大、また農産物の収穫直前には獣害被害と直面している状況である。

問 農業後継者育成や遊休農地解消に向けて、どのような対策を講じてきたか、また現在どのような対策を講じているか。

答 産業振興課長

農業後継者育成についてはこれといった施策は見当たらない。どちらかというと農業を主に行っている方というか、いわゆる世帯主に対し支援をしてきた経過がある。

最近では世界経済の危機的状況で、農業が見直されている傾向が感じられる。しかし農業を継ぐためにUターンする子供は少なく、どちらかというと当町にゆかりのない人が農業をして生活をしたという傾向が見受けられる。



松沢集落営農ソバの収穫

遊休農地解消については、勾配の強い農地までも含め、圃場整備事業を行って、農家の省力化を図り、栽培しやすい農業栽培品目などを積極的に探求し普及を行っている。

問 町内外の人が余暇を利用して、農作業のお手伝いをしてもらうシステムの構築。農業を志す若者や、定年帰農を望む方などを町外から呼び込み、営農指導と共に、農業機械の貸し付けや農地を幹旋する制度の運用は費用を伴っても、人口の増加や遊休荒廃の解消の1つになり、地域農業振興の意義は十分あると思うがいかがか。

答 羽田町長

余暇を利用して作業のお手伝いシステムの構築は、高齢化の進む町では、大変助かる事業であるが、お手伝いをされる方の考えや、受け入れ側の考えを十分聞くなど、今後検討したい。

町では農業をして生活してみたいという方に来ていただくと、人口も増加し、賑やかにもなるが、本人の希望を聞くなど話し合いをしなければ、先に進まない状況であるが、そういう試みは良いことだと思つ。



古川直孝 議員

問 デイジー教科書の普及促進について、発達障害者やそのほかの文字を認識することが困難である児童・生徒の学習支援、マルチメディアデイジーについて町の状況と対応について。

答 羽田町長

現在、支援を要する児童に対してはマンツーマンでの学習を行っており、児童の実情にきめ細かに対応でき、学習が進むので、マルチメディアデイジー教科書について、現在は使用していない。しかし、この教科書を使用することにより、児童の学力向上等が十分期待できることから、来年度試験導入をして、その教育成果をもとに、本格的に導入してゆきたい。

問 長門児童館、児童クラブについて、1日平均32名の来館者がある中で安心・安全として過ごせる居場所として、担当職員が1名で対応できるのか。

答 中村教育長

現在、長門児童館の利用者数は、1日平均36名前後であるが、学校行事等がある場合は、50名前後になるが、これは一時的なものである。

通常、児童館には2名の構成員が1日おきに勤務をして児童の相手をしているが、学校行事等があり一時的に児童数がふえる時には、2名が勤務するような体制をとっている。

そんな中で児童館の館長、図書館の先生等の手を借りて、現在は問題なく対応していると思っているが、これから児童数が増えるようなら、今の1名体制から2名体制にしていかなければ対応ができないと思う。

問 福祉の光が届きにくい人たちへ、公助や共助を含めた新しい福祉について、町民の方々が相談しやすい体制を整え、安心して生活できる環境を構築することが重要である。町長の見解は。

答 羽田町長

新しい福祉とは、社会の安全・安心を基盤として年金、医療、子育て支援などの従来の社会保険、福祉を一層強化しつつ、かつ各部門の垣根を越えて、現代特有な新しい課題にきめ細かく対応する施策の必要性を打ち出すものと思っている。

町としては、すべての人が幸せで安定した生活を営むことができるよう、住民の生活の現状把握に努め、問題を早期に発見し、早期に対応できるように、町民が相談しやすい体制を整えることが重要であると考え、相談窓口を一本化するなど相談しやすい体制を整備し、相談内容が複雑多様化していることから、さらに関係機関との連携を強化し、専門職とのネットワークを組んで、問題解決に向け、支援できるように環境を整えてゆきたい。

しかし、行政で支援できることは限界があり、地域の問題を自分たちの問題ととらえ、行政とともに、問題解決に向け、協働をしていけるよう住民の地域に対する参加意識を高めていくことも必要であると思っている。

問 町民の生命と健康を守る町における自殺対策者と現状と課題、また自殺予防対策としてのうつ病対策について。

答 町民福祉課長

町の、うつ病予防の取り組みは、町民にうちの初期症状を理解してもらい、早期にうつであることに気づき、受診につながるよう、数年前より地域の医療機関への周知も含め、地域の医療機関の専門職による講演会を実施している。また、健診時の問診の中でうつ傾向にあり、気になった方には専門医への受診を進めている。

今後の対策としては、相談窓口の周知をして、支援体制の整備充実を図るとともに、相談機関の存在も周知をし、早期に発見し、早期に治療が受けられ、支援につながるよう、関係機関との連携により、相談しやすい環境づくりに取り組んでゆきたいと考えている。



長門児童館：石に自由に絵を描く子どもたち



伊藤博一 議員

問 住民代表による庁舎問題懇話会の答申を含め、役場内における検討委員会において、どのような内容が推進されているか。

答 羽田町長
4月より企画財政課が中心となり、庁舎建設基本計画書の作成を進めている。建設候補地を数箇所想定し検討を進め、庁議でも2回の審議をし、計画書のとりまとめが終了した。
町内懇談会を開催し、建設計画案の説明をしたい。

問 建設予定地、建設施工時期について説明を求めます。

答 羽田町長

建設予定地は、国道152号線沿線を想定して計画を立てた。建設スケジュールについては、22年度に町内懇談会を開催し、23年度に長和町庁舎建設委員会を設置し、平成24年、25年度の2カ年で計画をしたいと考えている。

問 場所は152号線ということであるが、現状の長門庁舎の敷地を利用することを望んでいる。面積においても問題はなく、日常業務においても支障はないと思われる。

また、大きな問題として、土地が必要になるが、現状の土地を十分活用することにより、建設コストの削減と町民の利便性にも有利ではないかと考えるがいかがか。

答 羽田町長
長門庁舎のところでは狭い。また、長門庁舎の跡地利用を有効に活用したい考えもあり152号線の沿線という案である。

問 建設予定地の面積、駐車場を含めてどのくらいか。また施工方法及び建設費用はどのくらいの予算なのか。

答 企画財政課長

建設用地面積は駐車場用地を含めて、約1万平米を見込んでいる。施工方法は、木造建設でと考えている。建設費用については、土地の購入から外構工事まで含め、12億円を見込んでいる。この中には、情報基盤整備等も含めて考えている。

なお、今後もしるような修正も必要になり、建設の同意が得られれば建設委員会をつくり、いろいろな議論して、事業費等も決定をしたいと考えている。

問 高齢者のひとり暮らしで生活の上で不安を解消する支援施設として、地区ごとにケアハウスによる安心の地域づくりの取り組み構想についての考えは。

施設の管理運営に関しては、日常管理職員の配置が必要であり、雇用対策にもつながると考えられるがいかがか。

答 羽田町長

和田にある高齢者生活福祉センターほほえみも、ケアハウスの1つ。最近では高齢者が今までの人間関係や生活環境をできるだけ維持できるようにという視点から、地域密着型

の認知症のグループホームや、小規模多機能の施設が注目をされており、利用者がその身体状況や経済状況により選択して利用できる。

町も、第5期介護保険計画の策定に向け、今年度中に意向調査を行う予定であるので、住民の意向を得ながら慎重に進めてゆきたいと考えている。

町の各地区から要望を見ても、自分の地域に高齢者施設の建設をというのが多く見受けられ、それだけ住民が身近に必要性を感じていることが分かる。また、施設ができれば、雇用の創出にもつながり、非常に喜ばしいことであり、多様な施設の中から、今この町にどんな施設が必要なのか前向きに検討し、誰もが老いても安心して暮らせるまちづくりを進めてゆきたいと思っている。



新庁舎建設計画地（古町152号線沿線）



河野啓治 議員

問 町の獣害対策の柵への交付金要望額500万円に対して、国から町への交付金が165万円になってしまった、差額325万円を一般会計から繰り入れて当初の獣害対策の柵を予定どおり設置すべきと要望した。その後、どう対応されているのか。

答 羽田町長

当初一般財源で原材料費支給1000万円、有害鳥獣柵設置の原材料費補助金として500万円を計上した。指摘のとおり補助金が減額となった。予算の組み替えが必要となるが、今議会の最終日に補正をお願いしたい。

問 柵設置事業は進んできている

中で、事業実施主体に名乗りを上げられない地域が置き去りにされてきている。これらのところは耕作地の地権者が既に耕作を放棄していたり、人数が少なくなったり、高齢化しているなど柵の設置の労力の確保ができず、柵の設置ができないところがある。このようなところへの支援策を求める。

答 羽田町長

対象に当てはまらない耕作者には、林務係で実施している獣害防止資材の購入補助で対応している。高齢化、遊休荒廃地化が懸念されるが、現状、最初に申し上げた組織等に原材料を支給して行っている中で、建設工事的発注はできかねる状況である。関係者で原材料の支給を受けて、シルバー人材センターに安く委託交渉するとか、地元でそのような対応ができないかと検討していただきたいと思っている。

町としてもこの柵の連続性がなければ効果が薄くなることは承知しているが検討していきたい。

問

子育て支援策のさらなる充実について求めたい。千葉県旭市では、本年4月より満2歳未満の乳幼

児に対する紙おむつ給付事業を実施し、子育て家庭から喜ばれていることを聞いた。子育て日本一を目指す長和町でも実施するべきかと思うが。

答 羽田町長

常々子育てで日本一を目指そうと申し上げてきているので、どっという形で実現していくか、長和町においてどのくらいの財源が必要なのか、よく考えながら進めさせてきたいと思っている。

問

高校通学費の補助金の交付に加えて、高校入学支援金の3万円の交付、保育料の減免、小中学校給食費の減免、15歳未満の子供がいる世帯への転入奨励金の3万円の交付、紙おむつ給付事業などを盛り込んだ子育て応援条例の制定をして、長和町が子育て支援日本一が一目でわかる、アピールできるようにしたらと思う方がいいか。

答 羽田町長

現在、長和町少子化対策基本計画の取りまとめ、今後の施策の基盤となる計画を策定したいと考えている。今お話しのように、子育て応援条例も、よく議論をしながら検討してい

きたいと思う。

問

これらのことを実施している群馬県の南牧村では、子育て支援日本一のスローガンを掲げてはいないが、高校入学支援金3万円、保育料無料、小中学校給食費無料、15歳未満の子供がいる世帯への転入奨励金3万円の交付、これらを盛り込んで子育て応援条例を実施している。

このような施策を長和町でもぜひ取り入れてほしい。すぐには大変かなと思うけれども、検討をしてほしい。

答 羽田町長

長和町も、保育料無料ではないが、先般一律減免をさせていただいたし、さまざまな面で子育てしやすいような環境づくりはしているが、この南牧村の通りにできるかわからないが、極力努力をしたいと思っている。



獣害対策の防護策



栗原暁史 議員

問 町の国保の実情と今年度の収支の見通しについて。

答 羽田町長

平成22年3月末現在、国保加入世帯数1152世帯、町全体の43%。被保険者数2131人、町全体の29.6%。収納率91.5%。国保基金残高は約6400万円。今年度の見通しは、収支不足額2534万円と予想される。

被保険者の所得階層別構成は、所得33万円以下が60.7%、34万円から100万円以下が16.4%、101万円から200万円以下16.3%、201万円から300万円以下4.7%、301万円以上が2%。

問 そもそも国保とは何か？

答 羽田町長

社会保険としての医療保険であり、社会保険制度の基本理念である国民皆保険制度の中核をなしているもの。また、加入者が保険税を納めて、相互扶助する制度だ。

問 戦後、日本国憲法25条「生存権」の具体化として社会保障が位置付けられた。一環として、医療保険分野の社会保障たる国民皆保険制度を実現する制度として位置づけられた。国保は、医療保険分野で社会保障の根幹を守るための保険制度であるという事が、他の公的医療保険制度と大きく違うところだ。町長の見解を再度問う。

答 羽田町長

国民皆保険実現のため、国民健康保険は、市町村が保険事業者となつて実施しており、他に加入できない人たちが入っている。しっかりとした国保行政をしなければならぬと思っている。

問 国保法の改悪による資格証明書の義務化への対応について。

答 羽田町長

資格証明書の交付は、現在のところ考えていない。

問 一般論として国保税の引き上げが滞納率が上がる原因になっていると思うか。

答 羽田町長

全く関係のないことではないと思う。

問 長和町の国保税の来年度の引き上げの検討状況は。

答 羽田町長

基金を今年度も取り崩さなければならぬ状況の結果、来年度は基金が底をつくことが予想され、国保税の引き上げも検討しなければならぬと考えている。

問 国保の加入者の所得構成をみると、40歳から64歳まで（介護保険の分も納める人の範囲）で考えたとき、ほぼ8割が、所得120万円（年収で約200万円）以下の人。

長和町が他市町村との比較で、国保税が低いことは承知している。しかし、社会保障制度の一環であることを考えたとき、この不景気の中で

国保税を上げて良いのかということだ。

国保税の引き上げをしないために、一般会計からの法定外繰り入れ（政策的な繰り入れ）をするべきだ。

答 羽田町長

一般会計からの繰り入れは、国保加入者以外の住民への公平性も考慮し、理解も得ていかなければならない。国民健康保険運営協議会で検討してもらいながら、繰り入れの可否について決めていきたい。

問 公平性を欠くかどうかという点で言えば、(1)すべての人のための行政施策というものはほとんど無い、3割の方が加入している国保への支援が公平性を欠くということにはならない。(2)医療保険分野における社会保障制度、最後のセーフティネットとしての国保の性格。(3)所得が低い方が非常に多いという国保の加入者の実態の3点から、一般会計からの繰り入れも公平性を欠くということとは、決してないと思う。

答 羽田町長

お話のようなことも頭に入れながら、しっかりと国保を守っていくために、この問題を考えていきたい。



田村孝浩
議員

問 デイサービス大門では、今後の取り組みとして、宿泊施設の充実を考えていきたいとの現場の要望があるが、今現在、町の施設運営の考え方を伺いたい。

答 羽田町長

4月に、デイサービスセンター大門の管理運営を行っている社会福祉法人依田窪福祉会の担当者より、小規模多機能型居宅介護事業を実施していきたいと話をつけている。この小規模多機能型居宅介護事業とは、平成18年4月の介護保険制度改正により創設された地域密着型のサービスの1つで、可能な限り利用者が在宅生活を継続できるように支援するものとしており、通い、訪問、宿泊の3つのサービス形態が一体となり、

24時間切れ間なくサービスを提供できるのが特徴である。

町としても、平成24年度から26年度までの期間とする第5期介護保険事業計画及び老人福祉計画に盛り込み、補助金を活用しながら、早い時期に施設の整備を行って、要望に応えたいと考えている。

問

高齢者が中重度の要介護状態になっても、可能な限り住みなれた自宅または地域で生活を継続できるようにするため、利用者は市町村の住民に限定され、市町村が事業者の指定や監督を行うという事業だということである。この中で第3期、平成18年4月から3期だと思いますが、今現在が第4期、平成21年から23年、どうしてこの計画第4期に実行されなかったのか。

答

町民福祉課長

この小規模多機能型居宅介護事業というのは、第3期の組み立てのときには、まだこれが出ていないので、3期ではできなかった。4期の部分については、住民の意向調査等の部分、現状の把握等が遅れており実現に至らなかったというのが現状である。

問

小規模多機能居宅介護を始めることによって、自己負担が増えるそうだが、現在デイサービス大門では、24名が利用している。この介護サービスを始めると利用ができなくなってしまうので、自己負担が増えるために、今までは通っていたんだけど、今度この介護事業を始めると金額が増えるので利用できなくなる方がいるという話だが、その対策についてはどうお考えでしょうか。

答

町民福祉課長

自己負担の部分について、まだはつきりとした金額が出ていないが、依田窪福祉会等の計画の中で、試算の中で、7万円から8万円ぐらいが1ヵ月かかるだろうと考えている。今現在24名の方が施設を利用していると、デイだけであるけれども、この小規模多機能型居宅事業は、定員が一応24名となっており、9名の方が泊まれる施設、15名が通所型という24名の定員という施設になる。そんなことで、まだ自己負担的には試算はできていないけれども、概算としては7万円ぐらいというふうな試算をしているところである。

問

長門牧場への最短道路について、長門牧場へ行くには他町を通らなければいけない現状は、以前から問題になっている。消防での活動も、第3分団は笠取峠から、第5分団は白樺湖を回って牧場での消火活動を行った例もあり、だれもが不便を感じている。町としてどのように進めていくか聞きたい。

答

羽田町長

今回、過疎計画の策定に伴い、この路線の改良を計画に乗せていくことになった。町では町道大沢線と大茂沢林道について、今後、専門家に調査等を依頼して実現に向け取り組んでいきたい。

問

工事はいつごろから実施をするのか。

答

建設水道課長

計画では平成24年から4年計画で工事を行うことになっているけれども、そのときの社会及び財政状況等で変更になる可能性がある。



原田恵召 議員

問 過疎対策事業債について、ソフト事業にも使えるとのことだが、具体的にどんなものか。それと過疎計画及び年次計画を立てているのか。

答 羽田町長
手づくり事業補助、町民映画祭の開催、美しの郷サポート係の設置、有害鳥獣の駆除の奨励金事業、18歳以下の医療費無料化、高校通学費の補助事業等である。
事業計画年度は平成22年度から平成27年度までの6カ年計画で、年次計画は、現時点で考えられる事業の計画となっている。

問 空き家を活用し、若い世帯を呼び込み、町内会や自治会の中で

活躍してもらうことは、地域の活性化にもつながり、町の人口増にもつながると思うが、空き家はどのくらいあるのか。

答 羽田町長
以前から、空き家を活用しようという動きが出てきている。実際に他の市町村、都会から田舎暮らしをしたいということ、言ってこられておる方もいるので、今現在、町内会の皆さんの協力を得ながら、空き家の調査を実施しているところである。

現在まで寄せられた情報は41軒あり、内容等個別の詳細事項については、これから実態調査を詳細に実施して、具体的な空き家利用の計画を策定したいと考えている。

問 資源循環型施設並びに生ごみの堆肥化について、(1)資源循環型施設の建設候補地として、町内2カ所が手を挙げているが、今後どのように進めていかれるのか。
(2)最終の候補地決定はいつなのか。

答 羽田町長
広域連合で行っている事業で、昨

年12月から今年5月まで公募を行い、上田市が6カ所、長和町が2カ所、計8カ所の応募があった。
現在、構成市町村の廃棄物及び企画担当課長で構成される建設候補地検討委員会で検討を行っており、現地調査や地元の皆様の聞き取り調査を行って、現在進めている。これらの検討結果に基づき、予定では、22年度内に候補地の絞り込みを行い、その後、できるだけ早い時期に決定される予定になっている。

問 大門基幹集落センターの建て替えについて、(1)現在の計画内容、場所、入り口の形態、ホールの広さ、駐車場、総工事費はどのくらいか。
(2)公共の建物の寿命はどのくらいなのか。
(3)以前は投票所がこの大門基幹集落センターだったが、現在は窪城との間にある集会施設の方に移っているそうだが、建て替えが終わった後は投票所を戻すのか。

答 羽田町長
現在の場所が住民に使いやすいことから、既存の建物を取り壊し、また同時に旧菅林署官舎も取り壊し、敷地面積を広げて建て替えることで

まとめ、車の進入口は、旧菅林署官舎を取り壊した南側の道路から入り、建物の南側が正面玄関となる。ホールの広さ等は、現在と同等か、若干小さい広さで計画をしており、総工費は概算で1億4000万円を予定している。
公共施設の寿命は、財務省令で定められており、耐用年数は事務所50年、学校で47年となっているが、例えば長門庁舎も50年を超えており、実質的には50年以上と言えると

思う。

答 総務課長
町の選挙管理委員会で協議をした結果、現時点では変更する必要がないとの判断である。



現在の場所に建て替えが決まった
大門基幹集落センター（大門支所）



宮下 翼 議員

問 分水嶺トレイル事業について、コースの整備状況と実施状況について。

答 羽田町長

町の観光協会が主体となつて、長門牧場から美ヶ原高原までの、約38キロメートルの尾根道を歩く中信高原中央分水嶺トレイル事業を推進している。新たな観光資源として、魅力的なトレイルコースと町の観光をセットにした新しい観光企画を開発し、トレイルの町、長和町としても広く売り出したい。

答 産業振興課長

コースは、長門牧場から美ヶ原高原までを5つの地域に分け、それぞれAからEコースまでとなつてお

り、全コースの草刈り等を行い、既に歩ける状況にしてある。

看板類等の整備状況は、長門牧場から大門峠までの間では、地元のアイデアで作成した看板を設置しており、大門峠から美ヶ原高原までは、国定公園の範囲になるため、看板の使用に事業認可が必要で現在手続を行っている。

実施状況は、6月から10月までの毎月1回日曜日に1つのコースを歩き、全線を踏破する体験ツアーを開催し、6月52名、7月が38名、8月が40名の参加があり、客層は20代から70代の男女で、60代以上が約半数である。

県外旅行会社の商談会等へも情報発信をして、町にオールシーズン来てもらえるような計画をしている状況である。

問

前泊プラス翌日トレイルのようにパッケージ化して、前日は和田宿また長久保宿のガイドつきツアー等を楽しんでもらい、翌日にトレイルを楽しんでもらうというパッケージ化などはどうか。宿場のツアー以外にも長和町の魅力的な素材と組み合わせたパッケージ方式のアイデア開発に挑んでほしいと思うが。町

の考え方は。

答 羽田町長

町観光協会として、大変有望な事業として位置付けており、どのようにPRして、多くのお客さんに来ていただくかが課題である。先進地等を視察、関係者の意見を聞きながら研究をし、トレイルと町の観光をセットにした新企画の開発を行い、町の素材を生かして誘客を図り、しっかりと長和町に定着させていきたいと考えている。

問

町の100歳以上高齢者の所在確認の状況、確認方法等も含めて伺いたい。

答 羽田町長

長和町には100歳以上の高齢者は現在7名いる。担当課で利用施設及び自宅へ訪問し、本人と面会して確認した。

問

今後の高齢者の見守り活動の中心対象層は、ひとり暮らし高齢者の方々と認識する。この点について、在宅支援系の活動においても、民生児童委員の活動においても共通点と理解している。高齢者の見守りとい

う共通テーマに向かつて、最前線に携わる仕事間のさらなる情報の共有化等の連携、それにより、互いの業務の円滑化、効率化に結びつく方向での検討が望ましく、情報の共有化が進めば良いと考えているが、町の考えは。

答 羽田町長

町の緊急通報電話の拡充していくことや、社会福祉協議会で作成した住民支え合いマップなども有効に活用していきたい、何よりも日ごろから地域で気軽に声をかけ合う関係づくりができるような気配りや、地域での温かい支え合いということを、折に触れて地域の皆さんへお願いをしている。

今後もこの民生委員さんとの連携を良好に保つていき、それから社会福祉協議会との連携や、さらには病院や介護保険の事業所等々の連携もより良好にし、住民を中心に、住みなれた地域で自立して生活していただくことを支援するためのネットワークづくりを進めたいと思っている。

第29回下諏訪レガッタ大会に参加



2回目の予選を終えて戻ってきた選手

結果は自己ベストのタイムを出すも残念ながら予選敗退でしたが、一つの目標に向かって力を合わせ出場できたことはとても良かったです。

応援に来てくださった町の皆さんの大きな声援も励みとなり、とても嬉しく感謝しています。有り難うございました。

来年は参加人数を増やし、もう1チームつくって挑みたいと思います。

下諏訪町議会と交流も兼ね、8月22日に諏訪湖の下諏訪町漕艇場で開催された、第29回下諏訪レガッタ大会に参加しました。

大会内容は、かじを取るコックス1人と漕ぎ手4人の5人で1チームの500メートルのタイムを競うレースで、年齢と性別ごとに分けられ、我々は男子シニアクラスに出場しました。

最初は、みんなの呼吸が合わず真つすぐ進むこともできず大変でしたが、ボート協会の皆様のご指導のもと、練習を重ね大会に挑みました。



選手に熱い声援を送る応援の皆さん

ながわまち議会だより 編集委員会

委員長 伊藤 博一
委員 田村 孝浩
宮下 翼
竹内 英和
原田 恵召

るほど出たようです。もつしばらくすると雪との格闘の季節が来ますが、それも長和の自然で有り、よろしいかと思えます。

さて町の皆さん、ご承知の事ですが、長和町の一大事、新庁舎建設の懇談会が、各地で順次行われています。是非出席して町の考えを聞いたり、自分の考え、意見を言いましょ。

俺らが町の役場であり、子供や孫までもつながらることですから、大勢参加して話し合いをしましょ。

今、長久保地区では小野澤自治会長を先頭に、35人のボランティアで芹沢地区の荒廃地、約2町歩を里山整備し町の木桜を植栽して桜公園造りに取り組んでいます。

数年後には、花見が出来ると思いますので、その時まで町の皆さん楽しみにして、その時は是非お出かけください。

町の皆さんへの メッセージ

各議員さんに、日頃思っていることや住民の皆さんへのメッセージを書いていただきます。今回は竹内英和議員です。

編集後記
周りの山々の紅葉が色鮮やかな季節になり、この長和の里で暮らすことができ、四季折々の自然やら「めぐみ」にふれ、又、味わうことができ喜びを感じています。

今年は特に秋の「めぐみ」を皆さん沢山味わうことができたことでしょうか。松茸も、雑きのこも、2、30年に一度と言われ